



小さなエイリアンがいっぱいいただ

下田山塊 鎌倉沢～砥沢川

お盆のプレ山行に田邊さんが選んできたのは下田山塊。光来出川の余韻に浸っていた私は「トゾウ！」と飛びついたので、今帰ってきて思うことは、やはり行く時期が違うだけで沢の印象は全く違うのだろうということだ。

8/3 晴れ

大谷ダムの大江大橋を渡った先のスペースに車を停める。

車の周りにアブは数匹しかいないので「まだ大丈夫そうですね」と胸を撫でおろす。

林道を歩いて河原に降りるとブーンとアブが寄ってきた。「やっぱりいましたね」と3人とも慌ててネットを被る。水量が少ないのか廊下状の瀬は深くても腰程度。ジャブジャブ歩いてしまう。左に金倉沢をみても引き続き河原と廊下状の瀬が続き楽勝だと思っていたら、出ました！それなりの滝が。

大田原さんや小暮さんの記録だと8mとなっているトイ状の滝。ベテランの田邊さん、新人の杉本君ということは…ここは中堅の私が行きましょうと心でつぶやき右壁の細かいスタンスをトラバース気味に上がり、ハーケン2本でアンカーを作り10mのショートロープを固定する。ロープを何回も投げなおしてようやく杉本君がキャッチ。(子供の頃からソフトボール投げは不得意だったことを思い出した…) 杉本君は突っ張りで水流を跨ぎながらトイ状の滝を上手にあがってきた。田邊さんも同じく水流ラインだ。私も少しは役に立てて良かったと胸を撫でおろす。その後は特に問題になることもなく、「竿をだしてみるか」と田邊さんに先行してもらうが、途中で竿が折れてしまい一同ガックリ。標高485mで大きく右に曲がると正面に天をつくように高度をあげている細い滝がみえた。これは支流で左手が本流の大滝だ。この大滝は左から灌木を掴みながら巻き気味にあがる。スラブ状になる上段まであがると歩きやすくなった。次のトイ状の滝も左からやや強引に巻きあがる。こちらもすぐにスラブになり高度をかせぐが熱中症になりそうだ。沢床に戻ると露天風呂のような釜があったので3人とも飛び込み水浴びしながらしばしクールダウン。白滝下部は左から灌木のラインを上がっていくとすぐに傾斜の緩いスラブになり快適にあがる。ツメは1時間ほど藪を漕ぎ五平兵衛屋乗越のやや右にでた。

【日程】

2019年8月3日(土)
～8月4日(日)

【メンバー】

田邊(シ)、福永、杉本

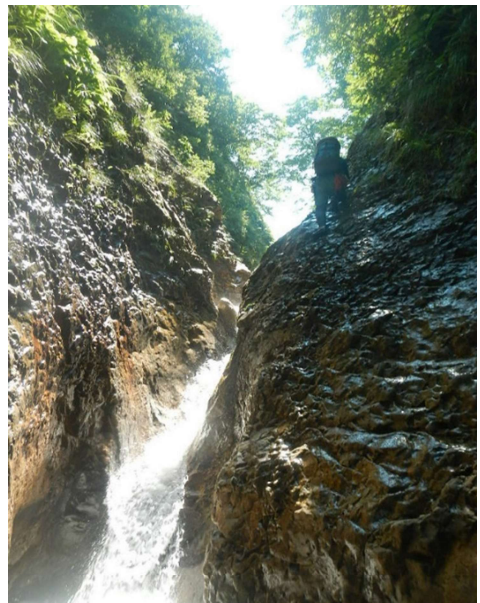
【グレード】

3級上

【地形図】

光明山、粟ヶ岳

【記】福永



8mのトイ状の滝をフリーで登る

すでに16時だが吉原沢の下降に入る。田邊さんの絶妙なルーファイでロープをしばらく使わずに降りていたが、大滝に阻まれて灌木ラインへ左にトラバースをかけながら30m懸垂下降。その後は河原が広がったので安心していたら、またまた大滝が。さすがの田邊さんも疲れたとザックを下ろしてくれた。すでに夕方なのだがアブは元気でブンブンうるさくネットがとれない。せっかくの焚き火も暑いので、3人とも離れたところで座り込み珍しく静かな夜だった。

8/4 晴れ

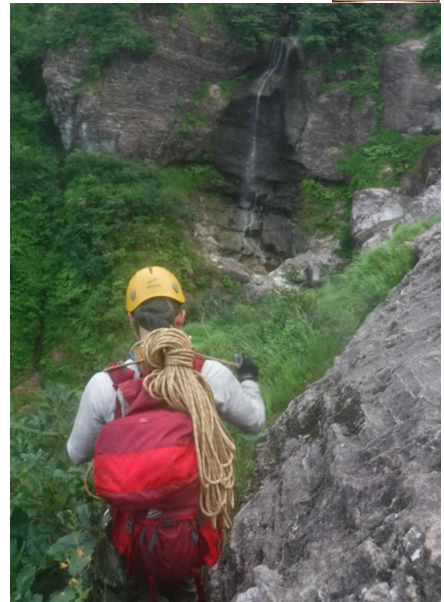
幕場の河原真下は大滝なので、起き掛け懸垂下降だ。

30mと50mロープを少しずらしてギリギリ30m強で沢床に降りる。続く4mトイ状の滑り台滝は田邊さんの確保で後ろ向きに降り釜に飛び込む。滝群から解放されると河原が広がり、金蔵沢まで行かなくても幕が張れそうな場

所があちこちにあった。マガリ沢を過ぎると両側の壁が高くゴルジュっぽくなるが青い空に白い岩がとてもきれいで気持ちがいい。一瞬、暗い廊下状となり焦るが突っ張りで流れを越え滝の落ち口にでると、最後は流れに飛び込み出口まで押し流される。ゴルジュのあとは河原で右岸側にキラキラ光る3連の滝をみるとウサギ沢出合だ。ここでしばし休憩。このあとまたすごいゴルジュが登場。岩がボツボツしていて独特の景観のなか深く長い瀬を頑張って泳ぐ。再び暗いゴルジュとなり滝の落ち口からは少し多めの水が落ちている。水流を避けて脇から飛び込んだら、危うく逆の流れに持っていかれそうになってしまった。反省。ここは思い切って水流に乗って遠くに押し流されるのが正解だった。その後も長い瀬を泳ぎ下る。そして何度も瀬をヘツリ泳いでいた私は見てしまっ



トゾウの独特のゴルジュ
ここにエイリアンが！



吉原沢の下降途中で
正面に左俣の大滝が見える

たのだ。瀬の側壁の水際から10センチ上くらいに、1センチ弱の小さな抜け殻がついていることを。半透明でまるでエイリアンのような形だ。これがアブの抜け殻なのだろうか。それは壁全体にびっしりと張り付いていた。長い瀬を過ぎると大量のアブにたかられる理由が分かった気がした。

ロンレ沢に12:30に着き、笠堀ダムを目にすると里心がついてしまった。これからロンレ沢を遡行しての尾根越えは辛い…

一旦はロンレ沢に向かうが出合には土砂が堆積しており全く足が進まない。踵を返し笠堀ダム左岸の湖岸をいくことにした。

最初は藪を漕いでいたが、足元が崩れる危うい湖岸の縁を進む田邊さんが早い。さてどこでダムを渡ろうか。笠堀川の出合の一番対岸が近いところを田邊さんがラッコ泳ぎで渡ってくれた。ロープで測った感じだと50～60mあったのではないだろうか。杉本君が2番手で私は最後に引っ張ってもらった。ちなみに生まれて初めてダムを泳いだ。沢登りは何でもありだと思つづく思う。右岸に渡ってからは、登山道を探しに藪にあがり、見つからず湖岸に降りて水際へツリを何度か繰り返した。熱中症気味になりながら辿りついたダムの管理棟はとても遠かった。車回収のためにタクシーを待っている間、杉本君がダムカードを貰いにいき、今までで一番美味しい麦茶をご馳走になりました。笠堀ダムの親切なミスター、ありがとうございました。



ダムを泳ぐ杉本君

【行程】

- 8/3 大江大橋(7:45)～鎌倉沢バックウォーター(8:00)～大滝前(13:00)～五平兵衛屋乗越(16:00)
～吉原沢右俣700m付近C1(17:30)
- 8/4 C1(6:30)～～ロンレ沢出合(12:30)～笠堀ダム渡渉(13:30/14:00)～笠堀ダム管理棟(17:20)



ダムの管理棟は遙か彼方